

第2回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン



環境サステナブル企業部門 特別賞
ユニ・チャーム株式会社

中期目標を定め、 ステークホルダーに 伝わる情報開示



ESG本部長代理
上田 健次氏

—貴社は、「特徴のある個性的な取組みにおいて優れた企業」として特別賞を受賞されました。受賞理由となった取組みをご紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

ユニ・チャームは、「SDGsの達成に貢献すること」をパーパス（存在意義）とし、「共生社会（ソーシャルインクルージョン）の実現」をミッション（使命）と考えています。このパーパスやミッションをより強力に推進することを目的に、中長期ESG目標 [Kyo-sei Life Vision 2030 ~For a Diverse, Inclusive, and Sustainable World~] を策定し、2020年10月に公表しました。

この [Kyo-sei Life Vision 2030] では「2030年のありたい姿」を演繹的に描き、これを起点としてバックキャストिंगで発想することを心がけました。これにより、「私たちの健康を守る・支える」「社会の健康を守る・支える」「地球の健康を守る・支える」「ユニ・チャーム プリンシプル」という4つの重点分野を設定し、それぞれ5つ、合計20の重要取組みテーマと指標・目標を設定しました。

このうち「地球の健康を守る・支える」では、衛生的で便利な商品・サービスの提供と、地球環境をより良くする活動への貢献の両立を目指し、「環境配慮型商品の開発」「気候変動対応」「リサイクルモデルの拡大」「商品のリサイクル推進」「プラスチック使用量の削減」という5つの重要取組みテーマを設定しました。これらの活動においては自社独自の技術の活用を目指していますが、特徴的な取組みの一つとして「リサイクルモデルの拡大」である「使用済み紙おむつの水平リサイクルシステム」が挙げられます。この活動は2016年より鹿児島県志布志市および大崎町と実証実験中で、2022年4月の商業運転開始を目指しています。使用済みの紙おむつは、通常可燃ゴミとして焼却処理されますが、自社

のリサイクル技術を活用しリサイクルすることによって、焼却処理と比較して温室効果ガスの排出を約8割削減することができます。

今回の受賞を機に [Kyo-sei Life Vision 2030] の推進を加速したいと考えています。

—今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えてください。

上述しました中長期ESG目標 [Kyo-sei Life Vision 2030] で掲げた4つの重点分野ごとに、事業展開と環境問題・社会課題解決とのつながりを考慮した活動内容をテーマアップしました。また、「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」の影響を踏まえた、事業継続対応や地域社会からの要請への対応等について、様々なステークホルダーの視点に立って編集・制作している点に特徴があると考えています。なお、気候変動対応においては、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の枠組みに沿ったシナリオ分析とリスク・機会を開示しています。

—企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

自社の拠り所となる「パーパス」や「ミッション」を明確に定め、様々なステークホルダーとの対話を通じてマテリアリティを抽出し、ありたい姿に向けた目標をバックキャストिंगで設定することが大切ではないかと思えます。多様なステークホルダーとの対話においては、分かりやすいコミュニケーションが大事であり、この点でもTCFDの枠組みなどを活用することは重要だと思えます。